

9事業に助成！ふるさとまちづくり協働事業 (2017/05/12)

ツイート

平成29(2017)年度小樽市ふるさとまちづくり協働事業の助成対象事業に、新規1を含む9団体が決定した。

5月8日(月)12:50から、市役所(花園2)2階市長応接室で、大津晶審査委員長が森井秀明市長に、同事業選考会に係る審査結果を報告した。森井市長は、これを踏まえて助成団体を5月10日(水)付けで決定した。

同事業は、市と市民との協働による個性豊かなふるさとづくりを進めるため、主体的に行われる公益性の高いまちづくり事業を実施する団体に対し、30万円を上限に助成金を交付する制度で、平成21(2009)年から行われている。



3月1日から21日まで今年度の事業団体を募集し、3つの新規を含む12の事業の応募があった。

4月24日(月)に選考会を行ない、大津審査委員長をはじめ、市民2名を含む7名の審査員で公開審査が開かれた。各事業の代表が出席して事業の目的について説明し、審査員からの質問に答えた。その後、審査員全員で検討し、同事業の要件を満たし採択すべき事業についてまとめた。

大津審査委員長は、「自由な発想で広くまちづくりに資するもので、市が実施している事業と重複していないかを確認し、より効果が得られるか、公益性の高いものを評価した。継続のものが多く、新規が少なかった。これまでの市民公募委員1名を2名に増員し、審査員それぞれが専門的見地から審査。審査そのものも市民が積極的に係っている。取り組みが、まちづくりの精神や同事業を理解しているか改めて評価した。中には計画が不十分なものもあった。貴重なまちづくり基金から拠出する観点では、助成するには望ましくないものもあった」と話した。

◎ふるさとまちづくり協働事業 ◎関連記事

平成29年度小樽市ふるさとまちづくり協働事業 助成対象事業一覧

事業名	応募団体
●継続(2回助成済み) ～あそびで笑顔のまちづくり～「みんなのひろば」	(子育て支援ワーカーズびすけっと)
○新規 Ichigo Jam プログラミング教室	(NPO法人小樽青少年科学技術の芽を育てる会)
●継続(2回助成済み) 奥沢水源地ライトアップフェスティバル2017	(奥沢水源地利トアップ実行委員会)
●継続(2回助成済み) 小樽石蔵シンポジウム	(NPO法人小樽民家再生プロジェクト)
●継続(1回助成済み) 小樽歴史紀行音楽きこう	(浅草橋オールディーズナイト実行委員会)
●継続(1回助成済み) 第2回小樽の街を航空写真と地図で見てみよう及び小樽マッピングパーティーの開催	(NPO法人チャレンジサポート北海道)
●継続(2回助成済み) 第4回おたる街並みスケッチ大会	(おたる街並みスケッチ大会実行委員会)
●継続(2回助成済み) 北海道の近代化に貢献した歴史的鉄道遺産の旧手宮線を「花と鉄道の故郷路に」	(NPO法人北海道鉄道文化保存会)
●継続(1回助成済み) 「街角に花を」・「大型プランター設置」両事業	(小樽フラワーマスター連絡協議会)

※事業名50音順



今日の話題

小樽市内の寺で最も古い歴史を持つ龍徳寺で、飾られている船絵馬を見た。帆を張って群青の海原をゆく北前船の雄姿。鮮やかな色彩が印象的だ。

船絵馬は、江戸から明治時代にかけて日本海を巡った北前船の船主らが、航海の無事を祈って奉納した。船の姿が詳細に描かれており、北前船を研究するには格好の材料。小樽・後志管内で近年、調査が進んでいる。

北前船と船主の物語は、寄港地の11自治体が合同で申請し、先月末、日本遺産に認定された。道内から函館市と渡島管内松前町が加わったが、「小樽はどっした」との声が小樽っ子から聞こえる。

明治維新の後、開拓民の生活物資を扱った北前船主らは、小樽運河周辺にいくつもの石造倉庫を建てた。これが小樽の発展を支え、現在に至る代表的な景観を形成している。

日本遺産で出遅れたとはいえ、小樽と北前船との縁は浅くない。小樽商大は国の事業の一環として調査研究に取り組む。龍徳寺などの船絵馬の確認もその成果だ。先ごろ開いたシンポジウムには大勢の市民も参加、ゆかりの地の観光資源化の方策を探った。

北前船と小樽

探った。

「北陸地方などに比べ、小樽・後志は未解明部分が多く面白い」と、同大学研究員の高野宏康さんは話す。

七福神を乗せた宝船のイラストなど北前船をモチーフに、地域ブランド「JUNGA」も登場。帆布生地で作ったバッグや菓子などを販売する。「海運」で栄えたマチで「開運」を。これが、そのうたい文句だ。(杉本 和弘)